(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3167197号
(U3167197)
(45)発行日　平成23年4月14日(2011.4.14)　(24)登録日　平成23年3月23日(2011.3.23)

(51)Int.Cl.　F I
A45C 11/00 (2006.01)　A45C 11/00 X

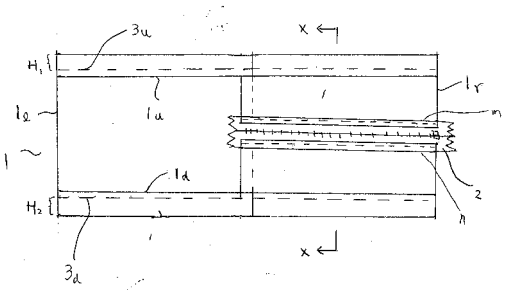
評価書の請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 34 頁）

(21)出願番号　実願2010-5170(U2010-5170)
(22)出願日　平成22年8月2日(2010.8.2)

(73)実用新案権者　510210737
村上　志津子
青森県青森市緑１－１－６－１０５
(74)代理人　100088096
弁理士　福森　久夫
(72)考案者　村上　志津子
青森県青森市緑１－１－６－１０５

(54)【考案の名称】収納袋

(57)【要約】　（修正有）
【課題】装飾効果を有するとともに変形が自在であり携帯にも便利な収納袋を提供する。
【解決手段】四角形状の布地１の中間部に水平方向に開口するファスナー２を設け、布地１の上辺１ｕを下方側に折り込んで綴じるとともに、下辺１ｄを上方側に折り込んで縫い合せ３ｕ，３ｄ部分で綴じることにより、上辺部１ｕと下辺部１ｄにゴムの通し部を形成する。さらに、布地の左辺１ｌと右辺１ｒとを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺１ｌと右辺１ｒを綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめる。これにより折り重なった縦じわ模様が表面に形成されている。
【選択図】図５



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
四角形状の布地の中間部に水平方向に開口するファスナーを設け、
前記布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、
　前記布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたエコバッグの収納袋。
【請求項２】
四角形状の2枚の布地の中間部に水平方向に開口する両面ファスナーを設け、
前記それぞれの布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、
　前記それぞれの布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたリバーシブルなエコバッグの収納袋。
【請求項３】
ファスナーの上方側乃至下方側の布地が上下で異なった色の布地である請求項１又は２記載のエコバッグの収納袋。
【請求項４】
上部と下部が開口し、ファスナーが取り付けられている袋地の該上部と下部の開口を周方向に付勢を与えてすぼめ状態として形成したことを特徴とするエコバッグの収納袋。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
　本考案は、買い物等で使用されるバッグの見栄えを良くすると共に、バッグの保管や収納が便利であり、さらに、変形可能でコンパクトな収納袋に関する。
【背景技術】
【０００２】
　装飾効果を備えた収納袋としては、特許文献１に記載された技術が提示されている。
　この収納袋はぬいぐるみ形状をしており、バッグ用収納部を備えたぬいぐるみは、頭部と胴体部を備え、頭部は、頭部の形状を維持する形状維持部材が内蔵され、胴体部は、物品収納用のバッグを折り畳んで収納可能な収納部を有し、バッグは収納部と直接又は間接的に連結している。
　しかし、この収納袋は、頭部の形状を維持しており、その部分の変形はできない。従って、携帯する場合、ハンドバッグへの収納ができない場合がある。すなわち、携帯上不便である。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１０－１３１１５９号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
　本考案は、装飾効果を有するとともに変形が自在であり携帯にも便利な収納袋を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
　本発明のエコバッグの収納袋は、四角形状の布地の中間部に水平方向に開口するファス

ナーを設け、前記布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、前記布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたことを特徴とする。

【０００６】

本発明のリバーシブルなエコバッグの収納袋は、四角形状の２枚の布地の中間部に水平方向に開口する両面ファスナーを設け、前記それぞれの布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、前記それぞれの布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたことを特徴とする。

【０００７】

本発明のエコバッグの収納袋は、ファスナーの上方側乃至下方側の布地が上下で異なった色の布地であることが好ましい。

本発明のエコバッグの収納袋は、上部と下部が開口し、ファスナーが取り付けられている袋地の該上部と下部の開口を周方向に付勢を与えてすぼめ状態として形成したことが好ましい。

【０００８】

また、バッグは、物品を収納する袋部と、袋部に連結固定された把持部を有し、ぬいぐるみの頭部及び／又はバッグの一部には、ぬいぐるみの頭部及びバッグを着脱可能に連結固定する取付手段が設けられても良い。また、取付手段が、把持部に設けられていても良い。更には、取付手段が、把持部と袋部の基部近傍に設けられていても良い。

【考案の効果】

【０００９】

通常時は収納袋内にバッグを収納し、収納袋を適当な場所に置くことができ、バッグの保管管理が非常に便利である。更に、バッグ使用時には、収納袋をバッグに取り付けてもよい。このメリットは従来技術と同じであるが、取り付けない場合には、本考案の収納袋は、形状を変えることが可能であり、コンパクトに折り畳むことも可能なためハンドバッグ内に、スペースをとらずに収納することも可能である。

【００１０】

なお、従来技術では、バッグは、物品を収納する袋部と、袋部に連結固定された把持部を有し、ぬいぐるみの頭部及び／又はバッグの一部には、ぬいぐるみの頭部及びバッグを着脱可能に連結固定する取付手段が設けられているため、バッグ使用時にぬいぐるみをバッグに取り付けることができ、バッグの見栄えを良くすることができる。更に、バッグ使用時にぬいぐるみをバッグの外側に取り付けて保管できるため、非常に便利である。

本考案も同様の効果を達成することが可能である。

【００１１】

また、従来技術と同様に、収納部には、取付手段として磁石を内蔵することが可能であり、バッグには、取付手段として磁石又は磁石に吸着する吸着部材が内蔵させておけば、収納袋みとバッグの着脱が非常に容易である。更に、冷蔵庫や適当な金属部分にぬいぐるみを取り付けて保管することができるため、収納袋及びバッグの収納管理が非常に便利である。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。

【図２】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。

【図３】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。

【図４】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図５】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図６】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図７】実施の形態１における収納袋の正面図である。
【図８】実施の形態１における収納袋の右側面である。
【図９】実施の形態１における収納袋の背面図である。
【図１０】実施の形態１における収納袋の左側面図である。
【図１１】実施の形態１における収納袋の上面図である。
【図１２】実施の形態１における収納袋の下面図である。
【図１３】実施の形態１における収納袋の斜視図である。
【図１４】実施の形態２において使用した装飾の平面図である。
【図１５】実施の形態２における収納袋の正面図である。
【図１６】実施の形態２における収納袋の右側面である。
【図１７】実施の形態２における収納袋の背面図である。
【図１８】実施の形態２における収納袋の左側面図である。
【図１９】実施の形態２における収納袋の上面図である。
【図２０】実施の形態２における収納袋の下面図である。
【図２１】実施の形態２における収納袋の斜視図である。
【図２２】実施の形態３における形成工程を示す平面図である。
【図２３】実施の形態２における収納袋の正面図である。
【図２４】実施の形態２における収納袋の右側面である。
【図２５】実施の形態２における収納袋の背面図である。
【図２６】実施の形態２における収納袋の左側面図である。
【図２７】実施の形態２における収納袋の上面図である。
【図２８】実施の形態２における収納袋の下面図である。
【図２９】実施の形態２における収納袋の斜視図である。
【考案を実施するための形態】
【００１３】
（形態１）
図５に基づき本形態の収納袋を説明する。
本形態に係る収納袋は、、四角形状の布地１の中間部に水平方向に開口するファスナー２を設け、布地１の上辺１ｕを下方側に折り込んで綴じるとともに、下辺１ｄを上方側に折り込んで綴じる（３ｕ，３ｄ）ことにより、上辺部１ｕと下辺部１ｄにゴムの通し部４ｕ、４ｄ（図６）を形成し、
布地の左辺１ｌと右辺１ｒとを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部４ｕ、４ｄに設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺１ｌと右辺１ｒを綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめる。これにより折り重なった縦じわ模様が表面に形成されている。
【００１４】
以下に、本形態の収納袋をその製造手順に従ってより詳細に説明する。
図１に示すように、本例では、四角形状の布地は、分割された小さな３枚の布地１ａ，１ｂ１，１ｂ２を縫い合わせて形成する。本例では、四角形状の二分の１の大きさの布地、１ａと、四分の一の大きさ２枚の布地１ｂ１、１ｂ２の３枚を用意した。
もちろん、大きな布地を裁断しながら形成してもいい。
図２に示すように、３枚の布地１ａ，１ｂ１，１ｂ２のうち２枚の布地に折込５ｕ、５ｄを与える。図２において上側の布地１ｂ１はその下辺を上側に折り込む。下側の布地１ｂ２はその上辺を下側に折り込む。
【００１５】
本例ではファスナーの開口長さを収納袋の二分の一とするため、図３に示すように、ファスナー２は布地１ｂ１と１ｂ２とに縫い合わせる。ファスナー２の布地１ｂ１、１ｂ２

への縫い合わせは、折込５ｕ、５ｄにおいて、縫い合わせ４ｕ、４ｄを加えることにより行う（図３）。

【００１６】

次いで、二分の一の布地１と、ファスナー２が縫い合わせられて二分の一の大きさになった布地１ｂとを縫い合わせ６により縫う合わせる（図４）。

次に、図５に示すように、布地１の上辺１ｕを下方側に折込んで綴じる（３ｕ）とともに、下辺１ｄを上方側に折り込んで綴じる（３ｄ）ことにより、上辺部にゴムの通し部４ｕを形成、下辺部にゴムの通し部４ｄを形成する。

【００１７】

図５のＸ－Ｘ断面図を図６に示す。

次いで、図５に状態から紙面の裏側に向けて布地を折り曲げ、て左辺１ｌと右辺１ｒとにおいて、綴じ込みを行う。

これにより、布地１は、上辺と下辺が開口した四角形状の薄い袋体となる。

次いで、ゴムの通し部４ｕと４ｄにゴムを挿入し、上辺と下辺の開口がすぼまる程度の付勢をゴムに与えて、ゴムの両端を結ぶ。それにより、開口は、すぼむ。すなわち、開口は小さく縮まり、開口は点状に閉じた状態となる。布地１は、外形形状は楕円体となる。

ファスナーの開口から、袋を裏返せば、折込部が内部に隠された収納袋を得ることができる。

【００１８】

また、図５に示した、上辺１ｕ、下辺１ｄの折込の綴じ合わせを行った、長さＨ１、Ｈ２に対応して、点状に綴じた部分（以下「極点」という）から放射方向にＨ１、Ｈ２の間は、布地は密着して折り重なりながら放射状のしわを形成する。Ｈ１、Ｈ２より内側においては、隣接するしわ同士は密着せず、末広がりに広がっていく。

また、ファスナー２の外側の線ｍ、ｎから内側にはしわは存在しない。従って、ファスナーの幅を適宜に選択すればしわの存在しない領域を希望により決定することが可能である。

なお、本例では、布地１ａは、１３５ｍｍ×１４０ｍｍ、布地１ｂ１、１ｂ２はその二分の一の寸法のナイロン製の布地とした。縦横の長さの比及びを適宜選択することによりしわの波打つ状態を適宜変化させることができる。

本例では、ファスナーの幅（図５のｎｍ間の距離）は２２ｍｍとした。Ｈ１、Ｈ２は１０ｍｍとした。

上辺を折り曲げてゴム通し袋を形成するための綴じ込み位置（H1、H2）は、綴じ込み状態における（図５の状態）における布地の横長さに対して、１／３０～１／１５が好ましい。この範囲外になると隣接したきれいなしわ模様が形成されない。

かかる寸法により外形がりんご形状の収納袋を作製した。

本図は実寸の約１／２で記載されている。

その際に、極点の隙間にから、リンゴのへた（茶色）、とリンゴの葉（緑色）を模した飾りを収納袋の外部に向けて挿入すればよい。

作製した収納袋の正面図、右側面図、背面図、左側面図、上面図、下面図、斜視図を図７から図１３に示す。

【００１９】

（形態２）

本形態においては、収納袋をリバーシブルとした。

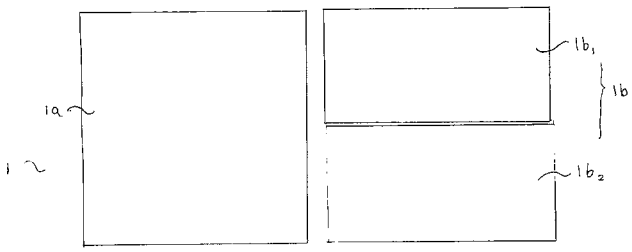
図５における布地１と同じ構成の布地を、ファスナー２の紙面手前側に、面対称に綴じこめることにより、リバーシブルの収納袋を作成することができる。

使用する布地の色を違うものとしてもよい。例えば、一面は赤色の布地、他面は黄色の布地を使用すれば、一面は赤色のリンゴ、他の一面は黄色のリンゴに模した収納袋を作成することができる。

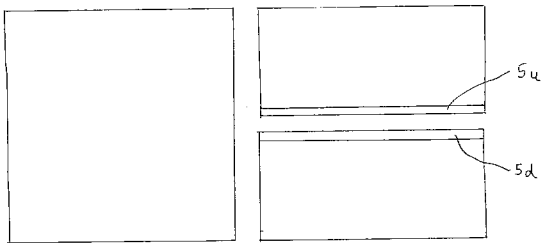
作製した収納袋の一面は、図７から図１３に示す図と同様である。リバーシブルな他の一面を図１５から図２１に示す。本例では、一面は赤色のりんご、他の一面は黄色のりん

ご形状である。
なお、図１４に示すへた及び葉を模した装飾を極点から挿入した。
【００２０】
（形態３）
本形態では、図２２に示すように、布地１の上部と下部を真ん中の布地の色とは別の色の布地１０、１１とした。
これにより、極点から所定の範囲は色違いの円錐形状ないし模様を示す収納袋となる。例えば、極点からＬ字状の装飾を挿入すればカーリングを模した収納袋とすることが可能となる。
また、形態２で述べたリバーシブルとして、一面はリンゴ形状とし、他面はカーリング形状とすることも可能である。
【符号の説明】
【００２１】
１　布地
１ｂ　布地
１ａ、１ｂ１，１ｂ２　布地
１ｕ　上辺
１ｄ　下辺
１ｌ　左辺
１ｒ　右辺
２　ファスナー
３ｕ，３ｄ　縫い合わせ
４ｕ，４ｄ　ゴム通し袋
５ｕ，５ｄ　折込
６　縫い合わせ
１０，１１　異なった色の布地

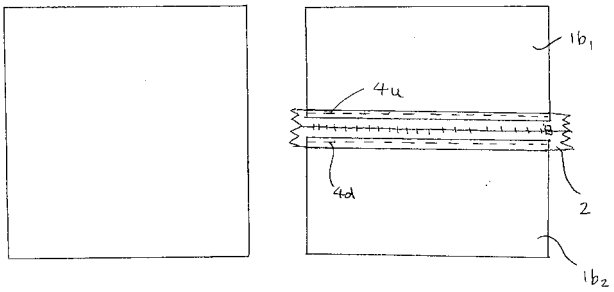
【図１】



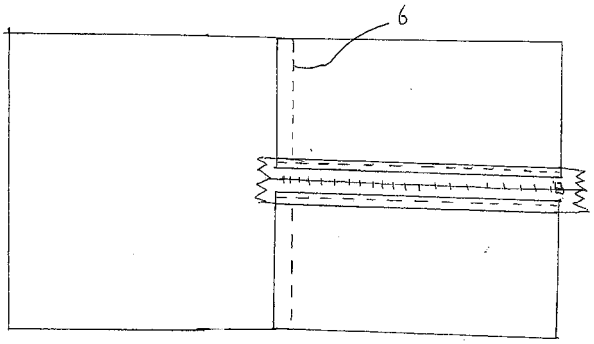
【図２】



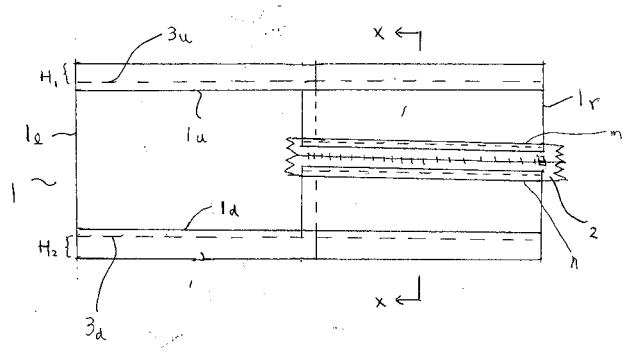
【図３】



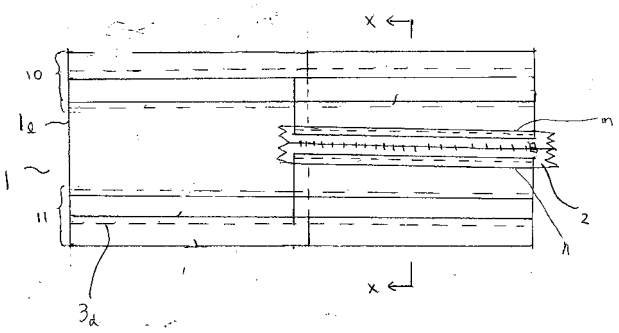
【図４】



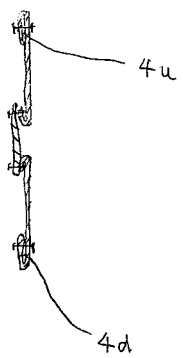
【図５】



【図２２】



【図６】



【図７】



【図８】



【図９】



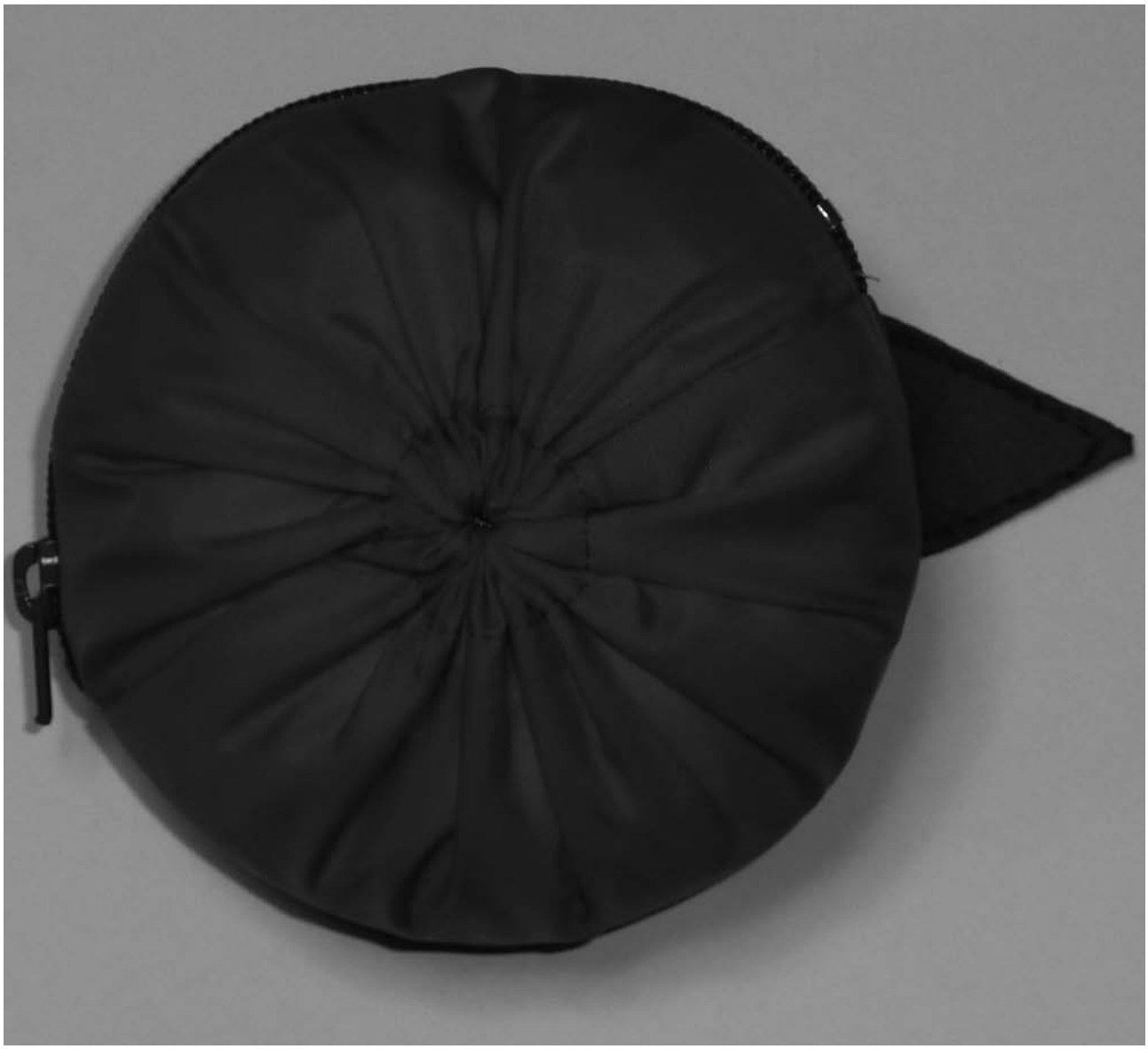
【図１０】



【図１１】



【図１２】



【図１３】



【図１４】



【図１５】



【図１６】



【図１７】



【図１８】



【図１９】



【図２０】



【図２１】



【図２３】



【図２４】



【図２５】



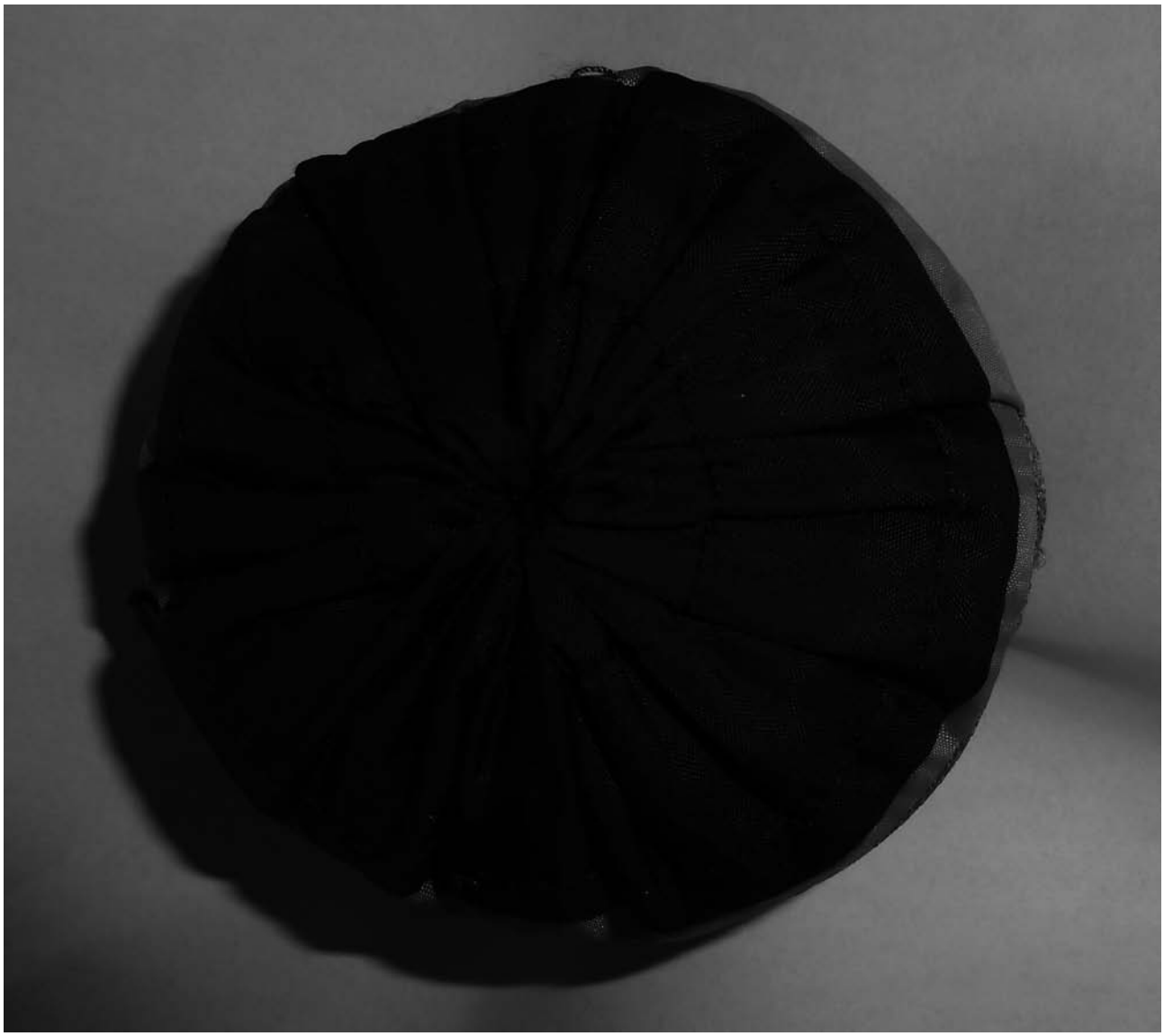
【図２６】



【図２７】



【図２８】



【図２９】



【手続補正書】
【提出日】平成22年9月27日(2010.9.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
四角形状の布地の中間部に水平方向に開口するファスナーを設け、
前記布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、
前記布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成された収納袋。
【請求項２】
四角形状の2枚の布地の中間部に水平方向に開口する両面ファスナーを設け、

前記それぞれの布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、
前記それぞれの布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたリバーシブルな収納袋。
【請求項３】
ファスナーの上方側乃至下方側の布地が上下で異なった色の布地である請求項１又は２記載の収納袋。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、買い物等で使用されるバッグの見栄えを良くすると共に、バッグの保管や収納が便利であり、さらに、変形可能でコンパクトな収納袋に関する。
【背景技術】
【０００２】
装飾効果を備えた収納袋としては、特許文献１に記載された技術が提示されている。
この収納袋はぬいぐるみ形状をしており、バッグ用収納部を備えたぬいぐるみは、頭部と胴体部を備え、頭部は、頭部の形状を維持する形状維持部材が内蔵され、胴体部は、物品収納用のバッグを折り畳んで収納可能な収納部を有し、バッグは収納部と直接又は間接的に連結している。
しかし、この収納袋は、頭部の形状を維持しており、その部分の変形はできない。従って、携帯する場合、ハンドバッグへの収納ができない場合がある。すなわち、携帯上不便である。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１０－１３１１５９号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
本考案は、装飾効果を有するとともに変形が自在であり携帯にも便利な収納袋を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明の収納袋は、四角形状の布地の中間部に水平方向に開口するファスナーを設け、前記布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し、前記布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたことを特徴とする。
【０００６】
本発明のリバーシブルな収納袋は、四角形状の２枚の布地の中間部に水平方向に開口する両面ファスナーを設け、前記それぞれの布地の上辺を下方側に折込んで綴じるとともに、下辺を上方側に折り込んで綴じることにより、上辺部と下辺部にゴムの通し部を形成し

、前記それぞれの布地の左辺側と右辺側とを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部に設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺と右辺を綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめて形成したことを特徴とする折り重なった縦じわ模様が表面に形成されたことを特徴とする。

【０００７】

本発明の収納袋は、ファスナーの上方側乃至下方側の布地が上下で異なった色の布地であることが好ましい。

【０００８】

また、バッグは、物品を収納する袋部と、袋部に連結固定された把持部を有し、ぬいぐるみの頭部及び／又はバッグの一部には、ぬいぐるみの頭部及びバッグを着脱可能に連結固定する取付手段が設けられても良い。また、取付手段が、把持部に設けられていても良い。更には、取付手段が、把持部と袋部の基部近傍に設けられていても良い。

【考案の効果】

【０００９】

通常時は収納袋内にバッグを収納し、収納袋を適当な場所に置くことができ、バッグの保管管理が非常に便利である。更に、バッグ使用時には、収納袋をバッグに取り付けてもよい。このメリットは従来技術と同じであるが、取り付けない場合には、本考案の収納袋は、形状を変えることが可能であり、コンパクトに折り畳むことも可能なためハンドバッグ内に、スペースをとらずに収納することも可能である。

【００１０】

なお、従来技術では、バッグは、物品を収納する袋部と、袋部に連結固定された把持部を有し、ぬいぐるみの頭部及び／又はバッグの一部には、ぬいぐるみの頭部及びバッグを着脱可能に連結固定する取付手段が設けられているため、バッグ使用時にぬいぐるみをバッグに取り付けることができ、バッグの見栄えを良くすることができる。更に、バッグ使用時にぬいぐるみをバッグの外側に取り付けて保管できるため、非常に便利である。

本考案も同様の効果を達成することが可能である。

【００１１】

また、従来技術と同様に、収納部には、取付手段として磁石を内蔵することが可能であり、バッグには、取付手段として磁石又は磁石に吸着する吸着部材が内蔵させておけば、収納袋みとバッグの着脱が非常に容易である。更に、冷蔵庫や適当な金属部分にぬいぐるみを取り付けて保管することができるため、収納袋及びバッグの収納管理が非常に便利である。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図２】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図３】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図４】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図５】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図６】実施の形態１における収納袋の形成工程を示す平面図である。
【図７】実施の形態１における収納袋の正面図である。
【図８】実施の形態１における収納袋の右側面である。
【図９】実施の形態１における収納袋の背面図である。
【図１０】実施の形態１における収納袋の左側面図である。
【図１１】実施の形態１における収納袋の上面図である。
【図１２】実施の形態１における収納袋の下面図である。
【図１３】実施の形態１における収納袋の斜視図である。
【図１４】実施の形態２において使用した装飾の平面図である。
【図１５】実施の形態２における収納袋の正面図である。
【図１６】実施の形態２における収納袋の右側面である。

【図１７】実施の形態２における収納袋の背面図である。
【図１８】実施の形態２における収納袋の左側面図である。
【図１９】実施の形態２における収納袋の上面図である。
【図２０】実施の形態２における収納袋の下面図である。
【図２１】実施の形態２における収納袋の斜視図である。
【図２２】実施の形態３における形成工程を示す平面図である。
【図２３】実施の形態２における収納袋の正面図である。
【図２４】実施の形態２における収納袋の右側面である。
【図２５】実施の形態２における収納袋の背面図である。
【図２６】実施の形態２における収納袋の左側面図である。
【図２７】実施の形態２における収納袋の上面図である。
【図２８】実施の形態２における収納袋の下面図である。
【図２９】実施の形態２における収納袋の斜視図である。
【考案を実施するための形態】
【００１３】
（形態１）
図５に基づき本形態の収納袋を説明する。
本形態に係る収納袋は、、四角形状の布地１の中間部に水平方向に開口するファスナー２を設け、布地１の上辺１ｕを下方側に折り込んで綴じるとともに、下辺１ｄを上方側に折り込んで綴じる（３ｕ，３ｄ）ことにより、上辺部１ｕと下辺部１ｄにゴムの通し部４ｕ、４ｄ（図６）を形成し、
布地の左辺１ｌと右辺１ｒとを綴じ込むとともに、前記ゴムの通し部４ｕ、４ｄに設けられたゴムの両端を付勢状態で結ぶことにより、前記布地の左辺１ｌと右辺１ｒを綴じ込むことにより形成される上辺と下辺の開口をすぼめる。これにより折り重なった縦じわ模様が表面に形成されている。
【００１４】
以下に、本形態の収納袋をその製造手順に従ってより詳細に説明する。
図１に示すように、本例では、四角形状の布地は、分割された小さな３枚の布地１ａ，１ｂ１，１ｂ２を縫い合わせて形成する。本例では、四角形状の二分の１の大きさの布地、１ａと、四分の一の大きさ２枚の布地１ｂ１、１ｂ２の３枚を用意した。
もちろん、大きな布地を裁断しながら形成してもいい。
図２に示すように、３枚の布地１ａ，１ｂ１，１ｂ２のうち２枚の布地に折込５ｕ、５ｄを与える。図２において上側の布地１ｂ１はその下辺を上側に折り込む。下側の布地１ｂ２はその上辺を下側に折り込む。
【００１５】
本例ではファスナーの開口長さを収納袋の二分の一とするため、図３に示すように、ファスナー２は布地１ｂ１と１ｂ２とに縫い合わせる。ファスナー２の布地１ｂ１、１ｂ２への縫い合わせは、折込５ｕ、５ｄにおいて、縫い合わせ４ｕ、４ｄを加えることにより行う（図３）。
【００１６】
次いで、二分の一の布地１と、ファスナー２が縫い合わせられて二分の一の大きさになった布地１ｂとを縫い合わせ６により縫う合わせる（図４）。
次に、図５に示すように、布地１の上辺１ｕを下方側に折込んで綴じる（３ｕ）とともに、下辺１ｄを上方側に折り込んで綴じる（３ｄ）ことにより、上辺部にゴムの通し部４ｕを形成、下辺部にゴムの通し部４ｄを形成する。
【００１７】
図５のＸ－Ｘ断面図を図６に示す。
次いで、図５に状態から紙面の裏側に向けて布地を折り曲げ、て左辺１ｌと右辺１ｒとにおいて、綴じ込みを行う。
これにより、布地１は、上辺と下辺が開口した四角形状の薄い袋体となる。

次いで、ゴムの通し部４ｕと４ｄにゴムを挿入し、上辺と下辺の開口がすぼまる程度の付勢をゴムに与えて、ゴムの両端を結ぶ。それにより、開口は、すぼむ。すなわち、開口は小さく縮まり、開口は点状に閉じた状態となる。布地１は、外形形状は楕円体となる。

ファスナーの開口から、袋を裏返せば、折込部が内部に隠された収納袋を得ることができる。

【００１８】

また、図５に示した、上辺１ｕ、下辺１ｄの折込の綴じ合わせを行った、長さＨ１、Ｈ２に対応して、点状に綴じた部分（以下「極点」という）から放射方向にＨ１、Ｈ２の間は、布地は密着して折り重なりながら放射状のしわを形成する。Ｈ１、Ｈ２より内側においては、隣接するしわ同士は密着せず、末広がりに広がっていく。

また、ファスナー２の外側の線ｍ、ｎから内側にはしわは存在しない。従って、ファスナーの幅を適宜に選択すればしわの存在しない領域を希望により決定することが可能である。

なお、本例では、布地１ａは、１３５ｍｍ×１４０ｍｍ、布地１ｂ１、１ｂ２はその二分の一の寸法のナイロン製の布地とした。縦横の長さの比及びを適宜選択することによりしわの波打つ状態を適宜変化させることができる。

本例では、ファスナーの幅（図５のｎｍ間の距離）は２２ｍｍとした。Ｈ１、Ｈ２は１０ｍｍとした。

上辺を折り曲げてゴム通し袋を形成するための綴じ込み位置（H1、H2）は、綴じ込み状態における（図５の状態）における布地の横長さに対して、１／３０～１／１５が好ましい。この範囲外になると隣接したきれいなしわ模様が形成されない。

かかる寸法により外形がりんご形状の収納袋を作製した。

本図は実寸の約１／２で記載されている。

その際に、極点の隙間にから、リンゴのへた（茶色）、とリンゴの葉（緑色）を模した飾りを収納袋の外部に向けて挿入すればよい。

作製した収納袋の正面図、右側面図、背面図、左側面図、上面図、下面図、斜視図を図７から図１３に示す。

【００１９】

（形態２）

本形態においては、収納袋をリバーシブルとした。

図５における布地１と同じ構成の布地を、ファスナー２の紙面手前側に、面対称に綴じこめることにより、リバーシブルの収納袋を作成することができる。

使用する布地の色を違うものとしてもよい。例えば、一面は赤色の布地、他面は黄色の布地を使用すれば、一面は赤色のリンゴ、他の一面は黄色のリンゴに模した収納袋を作成することができる。

作製した収納袋の一面は、図７から図１３に示す図と同様である。リバーシブルな他の一面を図１５から図２１に示す。本例では、一面は赤色のりんご、他の一面は黄色のりんご形状である。

なお、図１４に示すへた及び葉を模した装飾を極点から挿入した。

【００２０】

（形態３）

本形態では、図２２に示すように、布地１の上部と下部を真ん中の布地の色とは別の色の布地１０、１１とした。

これにより、極点から所定の範囲は色違いの円錐形状ないし模様を示す収納袋となる。例えば、極点からＬ字状の装飾を挿入すればカーリングを模した収納袋とすることが可能となる。

また、形態２で述べたリバーシブルとして、一面はリンゴ形状とし、他面はカーリング形状とすることも可能である。

【符号の説明】

【００２１】

１　布地
１ｂ　布地
１ａ、１ｂ１，１ｂ２　布地
１ｕ　上辺
１ｄ　下辺
１ｌ　左辺
１ｒ　右辺
２　ファスナー
３ｕ，３ｄ　縫い合わせ
４ｕ，４ｄ　ゴム通し袋
５ｕ，５ｄ　折込
６　縫い合わせ
１０，１１　異なった色の布地